

第2回未来型図書館を考える講演会について



01

日時・参加者・次第

【日 時】令和3年12月19日(日)13時30分～15時30分

【参加者】150名

【次 第】市長挨拶 ▶ 講演 ▶ 質疑応答

02

講師：太田 剛 氏 プロフィール

慶應義塾大学講師／編集工学機動隊GEAR代表／図書館と地域をむすぶ協議会チーフディレクター
(一社)日本食文化観光推進機構 理事／(一社)学習環境研究機構Fora 理事

和歌山県生まれ。高校理科教員を経て、1990年に編集工学研究所に入社。メディア制作から文化イベントの企画・施行、企業の事業戦略や自治体の観光戦略・地域おこしなど幅広いプロジェクトを統括。可能な地域社会モデルの構築に向けて全国を奔走中。2019年からは、活字文化議員連盟「公共図書館プロジェクト」事務局長に就任し、未来に向けた図書館改革を推進中。

03

講演内容の概要

演題「図書館で地域が変わる、未来を拓く～図書館と地域のレジリエンス～」

地域づくりのために図書館には何ができるか。図書館が50年、100年先の小松市を創っていくことができるかという視点から講演をいただいた。

太田氏は、幕別町での図書館改革で図書館と巡り合った時に、「こんな素晴らしい仕事は他にない。編集工学をはじめ、キャリア教育、食文化、観光など、今まで行ってきた仕事は全て図書館に凝縮され、そのためにあった。」と感じられ、図書館は、様々な人の想いを受け止める受け皿になり得る場所であると話された。

はじめに、幕別町をはじめ数多くの図書館の企画運営事例についてご紹介をいただいた。地元の木材をふんだんに使用し、図書の引越越しを町民リレーで行った茂木町「ふみの森もてぎ」。隈研吾氏が設計し、日本十進分類法によらず、郷土資料から四国・日本へと広がる特徴的な書棚構成や3世代が楽しめる空間づくりの梶原町「ゆすはら雲の上の図書館」。そして椎葉村図書館「ぶん文Bun」では、地域に本屋がなかったため観光協会を本屋に見立て図書を購入。人材育成を通じて本の装備も行うことで、地域内に雇用を創出し経済が循環する仕組みを構築するなど、ソーシャルイノベーションを生み出す図書館の役割についてもお話しいただいた。

また、「図書館と地域をむすぶ協議会」では、図書館のあり方を提案し続けており、多くが貸出中心の第2世代の図書館である中、空間づくりを重視した滞在型の第3世代、図書館そのものの機能を活かしたまちづくりの核となる第4世代、そして第5世代としてソーシャルイノベーションを起こす図書館にまで進んできていることや、第5世代の図書館スタッフには、資料収集やレファレンスはもとより、「まちづくりのファシリテーション」として、様々な人の意見を聞き・まとめ・一つの方向性にもっていく力が大事であり、館長、司書のスキルアップをはじめ、プロデューサー等の導入、ブックサポーターなど地域を愛し、地域を編集できる人材を育てられるかが図書館づくりの鍵になると話された。

さらに、「図書館と地域のレジリエンス」として、地域が社会変化などに柔軟に対応していくための拠点が図書館であり、キーワードとして、誰のために、いつ役に立つかわからない力や知識、教養などを図書館にみんなが持ち寄り、必要な時に手助けができる「利他」の心が大事であること、そして最後に「市民のアイデアをいかに詰め込んでいけるかが今後の図書館づくりの土台になる」と締め括られた。

04

参加者の声

- ・図書館とまちづくりの関係性や図書館をみんなで作っていくプロセスの多様性について学びが多かった
- ・ソーシャルイノベーションをはじめとして利他にまで及ぶ図書館は魅力的だと思います
- ・地域の未来像をも生み出す図書館が市民の拠り所となることの大切さを考えることができました

